

# 花川病院

症 例 概 要 患者氏名：US様（70代 女性）  
病名：第2・第4腰椎椎体骨折  
入院期間：令和元年6月中旬 ～令和元年9月中旬

経過：椎体骨折で痛みが強く横になることも難しくリハビリ目的で入院。しかし、歯科衛生士健診で残根状態多数歯あり機能歯は1歯、口臭もあり言葉も聞き取りにくく人と話をするのも嫌で食事も丸のみや細かく刻んで食べていて10年間この状態であった。

USさんはまだ若く今後の人生を考えると歯科治療は必要で根気よく説得。しかし一度も義歯を入れたことがない方が総義歯を使いこなす確率は100分の1と言われている。本人も相当の頑張りが必要。今回、訪問歯科医師や歯科衛生士やチームスタッフの声掛け、本人の努力で総義歯を使いこなせるようになり10年ぶりに果物や麺類などそのまま食べたり、人前でも歯を見せて笑い、会話も楽しめるようになり、それと同時にリハビリ訓練も積極的に取り組み歩行などADL向上ができたケース。

## 内 容

令和元年6月上旬に転倒し受傷、A整形外科を受診し上記診断、外来通院で療養していたが改善せず同月中旬に当院回復期リハビリ3病棟入院した。

入院時は軟性コルセットを着用していても痛みが強く寝返り動作困難。バルーンカテ挿入し、食事はベッド上であった。そのため疼痛管理、腰部痛の状態にあわせた体幹筋トレ、離床時間、耐久性向上、ADL向上に取り組んだ。

歯科衛生士の入院時健診で、口腔内汚れ、口臭ひどく残根状態多数歯あり、機能歯も1本しかなく、この状態で10年程経過。親の介護と歯科嫌い腰痛で受診しなかった。

入院時、歯科受診はあまり乗り気ではなく、まだ年齢も若く今後の豊かな生活のために義歯が必要であると何度も説得した。訪問歯科医と相談しながら治療に恐怖や不安があり、寄り添いながら歯周病の検査などから始め少しずつ慣れていただき抜歯、総義歯作成に至った。

初めての総義歯は異物感と会話をすることも、唾液も飲み込むことも難しく、装着時間を1時間ずつから始めた。管理栄養士は状態に合わせた食事形態を提供した。

そして義歯装着し食事が少しずつ楽しめるようになり、10年ぶりにりんごが噛め、麺類も吸って食べられるようになった。義歯装着後は歯をみせて笑うことができ、人と話をするが嫌いだったが話も楽しくなり日常生活も豊かになった。

義歯装着が進むにつれADLも順調に改善した。現在はMAXベルトに変更し寝返り、起き上がり、歩行は100m腰部痛なく可能、食事、整容、更衣、トイレは自立となり入浴は浴室内見守り、IADLとして洗濯機使用は自立となった。自宅復帰後、近所のコンビニまで買い物に行きたいと希望があり、往復500mの体力が必要なため、リハビリ継続を希望した後、オアシス21入所。

歯を失うと「噛むこと」「話すこと」「見た目」に大きな影響があり物事に積極的に取り組めず、活動性の低下が見られる。今回、入院の機会を利用し総義歯を作成したことで見た目も若々しくなり笑顔も見られリハビリ訓練に積極的に取り組むようになった。USさんから花川病院に来なかったら義歯作成することはなかった、色々普通に食べれることがうれしい、歩くことも力が入り本当によかったとお言葉を頂いた。

FIM	入院時	運動項目38点/91点	認知項目25点/35点	合計63点/126点
	退院時	運動項目79点/91点	認知項目31点/35点	合計110点/126点